

身体機能が低下する中,医師・看護師との連携により介護負担の軽減ができた症例

【目的】

「おだやかな療養生活を、望むところで」を方針に岡山県玉野市で訪問診療を実施しているクリニックにて訪問リハビリテーションを提供している.地域における高齢者率が高くなる中,社会資源を活用し在宅にて療養生活を続ける世帯が増加している.進行性の神経難病にて身体機能が低下する中,介護負担が軽減した一例を担当する機会を得たので報告する.

【方法】

80 歳代前半男性.傷病名:多系統萎縮症,2 型糖尿病,高血圧症,睡眠時無呼吸症候群,神経因性膀胱,起立性低血圧,発作性心房細動.H30/7 月から H30/10 月までの 3 か月で評価した.方法として 1,Zarit 介護負担尺度日本語版 2,Time Up and Go3,ブローイング 4,握力 5,ベッドからの起居動作に要する時間を測定した.(以下 1,~5,で表示)

【結果】

1,初期 31/88 点,3 か月後 24/88 点 2,初期 15.3 秒,3 か月後 33.4 秒 3,初期 23 秒,3 か月後 35 秒 4,利き手初期 31.6kg,3 か月後 27.7kg5,初期平均 60 秒,3 か月後平均 140 秒であった.

【結論】

身体機能の低下がみられる中,家族,主治医,看護と連携し,診察内容や病状について適時共有でき,改善したい内容に迅速に対応できた.また福祉用具の使用感,家族の意見を共有し,家族が望む生活を支援できた.フェーズに合わせた環境調整や困りごとを動画,静止画で具体化する事で,何が介護負担となっているかを見える化した.本人,家族の意思や判断を尊重した生活スタイルや日常生活活動動作を提案し実現したことで,介護負担を軽減できた.